

### 大川・熱川の幼小統合に向けた課題整理は

答 本年4月から委員会を設置し検討していく



稲葉義仁議員

#### ▽学校教育環境整備

問 大川と熱川の幼稚園・小学校統合についての課題整理・検討のスケジュールは。

答 基本的には2か月に1回委員会開催、また必要に応じ部会の開催も想定しているが、柔軟に対応していきたい。また、本年12月までには検討を完了したい。

問 時間が限られているので、課題の積み残しが無いようにお願いしたい。また、登下校の問題については北川地区や、中学生についてもあわせて検討を。

答 これまでの説明会でいただいた要望も踏まえ進めたい。スクールバスについては、北川地区にすればと考えている。中学生については小学生と一緒にというのは難しい部分もあるが、何らかの形で支援が

問 統合準備委員会では具

体的にどのような形で検討が進められるのか。  
答 10委員会の公式試合と練習試合が月平均1〜3回



できないか検討したい。

問 学校の規模・配置の適正化に向けた検討は、どのようなスケジュールで進めていくのか。

答 3月17日に予定される学校教育環境整備委員会からの最終答申を受け、総合教育会議において当町全体の学校教育のあり方及び次年度以降のスケジュールを決定し、議会と住民の方々に説明していく。

問 具体的な方向性は委員会の答申を待ちたいと思うが、それを受けての検討の進め方について、現段階でどう考えているか。

答 保護者の財政負担の状況は。

問 部員の人数も減少しており一人あたりの負担が大きくなっている。選手派遣補助交付金の適用範囲を拡大して対応している。

問 校外指導者の導入状況とその評価は。

答 稲取5部活、熱川2部活で外部指導者を導入し、技術指導を中心に継続して関わって頂いている。顧問がいるが経験者とは限らず大変助かっているという評価を伺っている。

問 1回の練習試合でも食事等含めて1万円の負担もある。実態の調査を。町マイクロスバスの指定管理制度で活用できないか。



教育長 仮に学校環境が変わる、整理統合が必要となるという答申がされるような場合は、保護者や地域住民の方々の意見を伺った上で最終決定を行いたい。6月議会でそのあたりについて説明できればと考えている。

#### ▽産業振興に向けた取り組み

問 空き店舗情報の整理・活用及び、起業を希望する方々に対するアプローチ等に関する具体策は。

町長 空き店舗情報は、商工会が収集・把握し、開業希望者に個別対応しているが、自宅兼店舗の施設が多く、テナント募集を行っている物件が限られているのが現状。また、起業を希望される方々には、商工会で年4回の創業セミナーを開催している。告知方法としては新聞折り込みや広報誌、CATV等を利用して

問 町外の方へのアプローチを考えた場合、空き店舗情報に関する情報発信、創業セミナーの告知媒体に検討の余地があるのでは。移住・定住にからめて町のHPに合わせ掲載するのも方法だと考えるが。

町長 可能な情報については町のHPへの掲載も含め幅広く検討したい。また空き店舗対策は商工会が主導しているので情報発信の可否を含め協議を進めたい。

問 空き店舗の情報発信やテナント募集については、商工会が積極的に調整に入る余地もあると考える。そういった部分も含め、移住定住施策と連携し進めていきたい。

### 先生や父兄にも負担大きい部活動

答 選手派遣補助交付金の拡大



山田直志議員

#### ▽町社会福祉協議会への補助金

問 町の地域福祉・介護で重要な役割を担って町社協は赤字に陥っている。財政援助団体になっている社協との財政的関係・ルールは。赤字が続く運営について、どう考えているのか。

町長 25年度事務事業レビューを受けて、収益事業を除く公益事業の2分の1を補助していたが、25年度以降継続的に赤字となっている。しかし、余剰金等もあるため、社協が自助努力で経営を立て直していた

町長 25年度事務事業レビューを受けて、収益事業を除く公益事業の2分の1を補助していたが、25年度以降継続的に赤字となっている。しかし、余剰金等もあるため、社協が自助努力で経営を立て直していた

町長 25年度事務事業レビューを受けて、収益事業を除く公益事業の2分の1を補助していたが、25年度以降継続的に赤字となっている。しかし、余剰金等もあるため、社協が自助努力で経営を立て直していた

問 各部署活動の公式試合と練習試合の状況は。

教育長 部にもよるが、5回から10回位の公式試合と練習試合が月平均1〜3回

町長 調査をして実態を基に検討していきたい。学校と相談して、しっかりした体制を作り部活動の充実に繋げていく。マイクローの活用についても、規定の見直しなども含めて検討していきたい。

町長 調査をして実態を基に検討していきたい。学校と相談して、しっかりした体制を作り部活動の充実に繋げていく。マイクローの活用についても、規定の見直しなども含めて検討していきたい。



#### ▽消火栓の維持管理と利用状況

問 消火栓の設置数と機種内訳は。年間にどのような管理・整備がされてか。訓練で活用された団体と使用された消火栓の数。

答 ハンドル式139基、バルブ式47基、地下式82基、全体で268基ある。消防署・消防団により定期的な見回り点検している。昨年は、防災訓練で片瀬区が1カ所使用した。

問 利用しやすいバルブ式に変え、水道管の管路により消火栓の色分けをしてはどうか。

答 消火栓の色分けは消防団とも検討していきたい。バルブ式への交換はよいが、お金がかかることなので少しずつ対応する。

#### ▽キャンピングカーへの対応

問 利用者が増大しているキャンピングカーは、駐車スペースがあれば止められることから、違法な駐車、火の使用、ごみの放置の弊害も少なくない。町はどう考えているか。

答 町内消費や交流人口の拡大という観点から、マナーを守ることを前提に、キャンピングカーでの来訪者も歓迎したい。